

学士課程教育における自己点検とその改善に関する年次報告書（総評）

情報科学部

1. 評価結果一覧

自己点検・評価単位	分析 項目 1-1-1	分析 項目 2-1-1	分析 項目 2-1-2	分析 項目 2-2-1	分析 項目 2-2-2	分析 項目 3-1-1	分析 項目 4-1-1	分析 項目 4-2-1	分析 項目 4-2-2	分析 項目 5-1-1	分析 項目 5-1-2	分析 項目 5-2-1
情報科学部	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5

自己点検・評価単位	分析 項目 6-1-1	分析 項目 6-2-1	分析 項目 6-3-1	分析 項目 6-3-2	分析 項目 6-3-3	分析 項目 6-4-1	分析 項目 6-4-2	分析 項目 6-4-3	分析 項目 6-5-1	分析 項目 6-6-1	分析 項目 6-6-2	分析 項目 6-6-3
情報科学部	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	4	4

自己点検・評価単位	分析 項目 6-6-4	分析 項目 6-6-5	分析 項目 7-1-1	分析 項目 7-1-2	分析 項目 8-1-1	分析 項目 8-1-2
情報科学部	5	5	5	5	5	5

（⑤十分に適合する ④適合する ③やや適合する ②余り適合しない ①適合しない）

2. 評価結果に対する総評

令和3年度の学士課程教育の完成年度を経て、更なる教育の質の改善・向上のため令和4年度入学生から導入した3つの教育プログラム（2年次から。計算機科学プログラム、データ科学プログラム、知能科学プログラム）及び3つの履修モデル（3年次から。基礎履修モデル、実践履修モデル、融合履修モデル）について、円滑な実施及びこれまで以上に高度できめ細かい専門教育実施に向けた対応及び準備を行った。

特に、令和5年度は、令和4年度入学生を3年次から履修モデルに配属するため、初めての配属希望調査等を行う必要があることから、4月及び2月の2回のガイダンス・説明会に加え、9月にもガイダンスを行い、学生が履修モデルの理解を深めた上で選択できるよう十分な配慮を行った。その後、3月の教授会・教員会で学生の希望及び成績等を基に配属する履修モデルを決定した。

また、具体的な対応・準備として、実践履修モデルにおいては、「長期フィールドワーク」（3年次後期及び4年次後期に行う各4か月計8か月にわたる有償インターンシップ）の実現のため、地元企業と入念な協議を進めた結果、中国電力株式会社、株式会社ドリーム・アーツ、株式会社広島銀行、復建調査設計株式会社、マイクロンメモリジャパン株式会社、マツダ株式会社（以上、社名順）の計6社に協

力いただけることになり、7名の学生を派遣（実践履修モデル配属）することが決定した。

次に、融合履修モデルの対応・準備としては、学生への希望調査において、工学部との融合履修を希望する学生について、工学部長をはじめ、関係する類及び教務関係教員にご協力いただき、具体的な科目の履修や指導体制等について協議を重ねた。その結果、学生1名を融合履修モデルに配属することができた（工学部との融合履修）。さらに、将来的な融合履修モデルの推進及びその他連携強化のため、栗井医学部長にもご協力いただき、霞キャンパスに医療情報科学連携オフィスを設置した。

その他、独立行政法人大学改革支援・学位授与機構の「令和5年度大学・高専機構機能強化支援事業『高度情報専門人材の確保に向けた機能強化に係る支援（ハイレベル枠）』」への申請にあたり、運営会議メンバーを中心に検討し、教授会・教員会での意見交換などを経て、十分な議論を行った。その成果として、無事採択に至った。また申請及び採択にあたり、入学定員の変更や入試の変更点について協議を重ねた他、第3年次編入学試験において、令和7年度から新たに導入予定の推薦入試（情報系学科（コース）の高専生対象）について、複数の高専に訪問し、進路担当教員との意見交換を行った。具体的に、入試における懸念事項を含め、聴取を行い、得られた情報を基に、入試内容の検討を行うなど、入念な準備を進めた。